令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【指扇小学校】

① 今年度の課題と学力向上策

	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」 算数「数と計算」「図形」「変化と関係」 <指導上の課題> 児童が反復・習熟に取り組む時間を十分に確保できていない。児童が意欲的に学習できる授業が少ない。	⇒	授業の最後に習熟を図る時間を確保する。【毎時間】 ドリルパーク等を活用し、漢字や基本的な計算を反復・習熟する時間を確保する。【業前、週に2回】 GRIT目標等を活用し、粘り強く意欲的に学習に取り組めるようにする。【学期に1回見直し】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」 算数「数と計算」「図形」「変化と関係」 <指導上の課題> 協働的な学習が効果的に行われていない。学習を振り返る時間が十分に確保できていない。	⇒	協働的な学習を行う際は、課題を明確化し、学びを深める。また、ICT・思考ツールの活用により思考の可視化を図る。【毎回実施】 時間の確保、タブレットの活用、ワークシートの工夫等により、振り返りの時間を充実させる。また、友達の考えと自分の考えを比較した内容を記録に残すことができるようにする。【毎時間】

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が学校全体の課題であったが、今回の全国学力・学習状況調査においても漢字については正答率が低く課題がみられた。全体的に無回答率が高いことも課題である。 算数では、棒グラフの読み取りや小数の計算の問題においては正答率が上がり、向上がみられた。台形や角の大きさ等「図形」の問題や分数の計算の問題においては昨年度と同様に正答率が低く課題がみられた。 「国語・算数の勉強は好きですか」の質問項目における肯定的な回答が、国語が64%、算数は62%であった。昨年度と比較して、算数は向上したが、国語は下がっており、意欲的に学習に取り組める工夫が必要である。
思考・判断・表現	国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の問題において課題があったが、改善がみられてきた。「読むこと」の問題で正答率が低く、時間的な順序や事柄の順序を考える問題や事実と感想、意見等との関係を基に要旨を把握する問題に課題がみられた。 算数では、引き続き「図形」「変化と関係」に課題がみられた。特に面積の求め方を記述する問題や、伴って変わる2つの数量の求め方を記述する問題の正答率が低かった。また、百分率を倍を使って捉え直し表現することにも課題がみられた。 「学習した内容について見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目における肯定的な回答が90%であったことから、学習の振り返りが身に付いてきたと考えられるので、今後もさらに充実させていく。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	授業の最後には、学習内容を確認する時間、定着させる時間を確保することができ、概ね目標通りだった。 週に2回程度、漢字や基本的な計算の反復・習熟する時間を確保することができた。 GRIT目標については、一人ひとりが取り組みたい内容を設定することができた。	GRIT目標の活用については、学習に限らず生活目標などにも応用し、粘り強く取り組むことができる機会を増やし、意欲を高める。【学期に2～3回】(追加)
思考・判断・表現	B	課題、目的を明確化することを意識して協働的な学習を進めることができた。 振り返りの時間を確保し、ノートやワークシート、エクセル等を活用して学習の振り返りを行うことができた。	振り返りの仕方については、学年、教科等で情報を共有し、より効果的な振り返りができるようにする。【学期に1回見直し】(追加)

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(おおむね達成)　C 6割未満(あと一歩)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	国語では、漢字や言語事項に関する知識において課題がみられた。語彙の育成を目指す取組や漢字の反復練習をする機会を設定するなどの工夫が必要である。また普段から、分からない言葉は辞書を引くことや文章を書くときには漢字を使うことを習慣付けることも大切である。 算数では、基本的な計算技能に課題がみられた。問題が解き終わらず、無解答になってしまっていることも多い。また、「データの活用」や「測定」においてグラフが読み取れていない様子がみられた。かけ算九九や小数や分数の計算など、計算練習をする時間の確保や家庭との連携が必要である。
思考・判断・表現	国語では、「話す・聞く」などコミュニケーションの能力に課題がみられた。高学年になると、相手の考えと比較して自分の考えをまとめることに対してとくに苦手意識がみられる。図や表、思考ツールも使いながら、自分の考えを言葉で表現する授業や相手の話を聞き自分の考えを伝える授業など、協働的な学習を取り入れた授業の工夫・改善が必要である。 算数では、かけ算の意味や割合の概念など、計算の仕組みについて考えることに課題がみられた。問題を数直線や図、式で表す練習の場を設けるなど、考えるための手立てを身に付けさせるための授業の工夫が必要である。

⑤ 学力向上策の実施状況

	評価(※)	
知識・技能	B	年間を通して、授業の最後には、学習内容を確認する時間、定着させる時間を確保することを意識して授業を進めることができた。 業前などに漢字や基本的な計算の反復・習熟する時間を確保したが、十分に身に付いてはいなかった。 GRIT目標については、一人ひとりが取り組みたい内容を設定するだけでなく、クラス単位で生活目標に取り組むなど、日常的に粘り強く取り組もうとする意欲を高めることができた。
思考・判断・表現	B	年間を通して、課題を明確にした協働的な学習を意識して授業を進めることができた。高学年では、ICT・思考ツールも十分に活用できるようになった。 振り返りを大切にして時間を確保し、内容も充実させることができた。ノート、ワークシート、エクセルなど取り組み方の工夫を広げていくことができた。

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(おおむね達成)　C 6割未満(あと一歩)

⑥ 次年度への課題と学力向上策

知識・技能	次年度も引き続き、基礎的・基本的な知識の定着を図るための工夫が必要である。業前の時間や毎回の授業の中において、学習したことを繰り返し練習し、習熟を図るようにする。プリントやドリルパーク等で漢字や小数・分数の計算をしたり、辞書を使って語彙力を高めたり、内容を工夫していく。家庭と連携し、個別に支援できる手立てを考えていくことも必要である。
思考・判断・表現	次年度も引き続き、課題を明確にした協働的な学習や振り返りを充実させることを意識して授業を進めていく。とくに国語では図や表、思考ツールを使い、相手の考えと比較して自分の考えをまとめる学習を取り入れる。また、算数では数直線や図、式を使って自分の考えを可視化する練習の場を設けていく。